
羅漢十無双

水銀の使い手

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

羅漢十無双

【Nコード】

N6609Y

【作者名】

水銀の使い手

【あらすじ】

なんと！？あのバカでバグで変態である英雄『ジャック・ラカン』が恋姫の世界に！？

この小説は駄文、ご都合主義、主人公最強、キャラ崩壊などの成分が含まれております。それにアレルギー反応が起きる方はスルーして下さい。

そうでなければ小学生の頃に描いた『ぼくがかんがえたすごくつよいぶき』といった黒歴史のノートが友達を家に誘ったさいに見つかる確率が大幅に上がります。

更新速度は気合が出てきたらす。

プロローグ（前書き）

さてはて、なんかノリで書いてみましたよ。原作とか三国志とかあまり知識が無いが頑張ろうと思う。

プロローグ

褐色肌の英雄は消された右腕を『千の顔を持つ英雄』で補い武装する。

——帝国九七式破城槌型魔導鉄甲！！！！——

褐色肌の英雄の右腕は巨大な機械の腕へと変化する。それを見て白髪の青年は眉を顰めた。

「：あなたに似合わぬ無様な武器だ。なぜだ：？
なぜあなたはそんな顔で戦える？全てが無意味だと知らされながら」

「いや、あなたは既に知っていた：10年前、いや、20年前のあの日からMM上層部がひた隠しにするこの世界の秘密に」

「この世界の無慈悲な真実に。
絶望に沈み神を呪うもおかしくはない真実だ。事実これまでに、僕が見てきた者は皆そうだった」

「なぜだ？ 真実を知り、尚、20年：なぜあなたは、この意味なき世界をそんな顔で飄々と歩み続けられる？」

白髪の青年は問いた。対峙している褐色肌の英雄に。褐色肌の英雄は「ほ」と小さく驚きの声を上げる。

「：なんだ、てめえ
んなこともわかってなかったのか。

（てっきりわかってやってんのかと：）」

そんなことを思いながら、褐色肌の英雄は不敵な笑みを浮かべてその問いに解した。

「真実？ 意味？」

そんな『言葉』、俺の生にやあ何の関係もねえのさ」

その解に白髪青年は苦虫を噛み潰した表情をする。

「……ッ

ならば、その真実に焼かれて消え去るがいい。幻よ！！」

白髪青年は周囲に展開していた無数の石の黒杭を褐色肌の英雄に飛ばした。だがその黒杭を一発も当たらずに褐色肌の英雄は白髪青年の背後を取る。白髪青年はそれに気づき褐色肌の英雄の一撃を体を少しずらして躲し、拳の打ち合いが始まる。褐色肌の英雄は殺気に気づき顔を横にずらして白髪青年が放った『造物主の掟』の一撃を避ける。間髪入れずに白髪青年は地を踏み込み掌底を入れるが、それさえも躲し白髪青年の背後に回ると巨大な機械の腕と化した右腕を振り下ろし、一撃を与えてそのまま地面に叩き付けるようにして殴り付けた。その威力は凄まじく、殴り付けられた地面は隆起していた。

「ぐ・」

白髪青年は苦痛の声を上げるが、その程度であった。

「……これも無意味だよJ・ラカン、結果はもう決まっている」

そう言った白髪青年に褐色肌の英雄——ジャック・ラカンは口

角を吊り上げながら返す。

「けど、楽しかったろ？」

ガチンッ、と巨大な機械の腕の肘に付いていた杭が音を鳴らし、

「もちっと楽しめや、『フェイト』」

ゴッ・・！！！！、と轟音を上げて杭が撃たれそれに連動して追加の一撃を白髪青年——フェイト・アーウェンルクスに食らわした。

・ ・ ・ ・ ・

ラカンがフェイトにデカイ一撃を与えた後、自分の存在する限界を悟り弟子である赤毛の青年——ネギ・スプリングフィールドに後を託して桜の花びらが散るようにして消え去った。ラカンが消えた後、ネギは怒りのあまり暴走状態になり、『闇の魔法』の影響で半魔物化してフェイトを攻撃するものの消えたはずの英雄の一撃により暴走状態が解かれる。フェイトはその英雄に心底呆れて転移してその場を去り、ネギはそれを止めようとするが英雄に止められる。そして消えたはずの英雄——ラカンは再び弟子の前へと現れた。

『よっ』

「ラ：ラカン：さ：ん：」

『これか？気合だ。』

全ては気合で何とかなる。』

ラカンは弟子の相談役兼パートナーの一人である長谷川千雨が持っている『いどの絵日記』をちらっと見る

『：どうやら世界の真相には到ったようだな』

『なら、話は早えぜ。』

見てのとおり、奴らはその世界の秘密に繋がる力を得たみてえだ。わかるな？俺じゃ、今の奴らにてんで敵わねえって訳だ。奴らを止められるのはお前達だけだ！！』

「：：：：：！！」

『まあ、ガキのてめえに世界を背負えとまでは言わねえ。アスナを頼む』

「え：」

『奴らが造物主の力を得ている以上、ホンモノのアスナは向こうの手にあると考えるべきだ：』

「え：」

「！？」

「ラカンさん今なんて！？」

『おーう嬢ちゃん！』

チサメ嬢ちゃん！』

「な、なんだ私かよ？」

『今の暴走でわかるとおりコイツはまだまだだ。
バカやらねえように見ててやってくれねえか。
嬢ちゃんが一番コイツを見てる。頼むぜ』

「なッ…」

ババ、バカ言ってるじゃねえよ。何で私が！？そういう役目は神楽坂一択だろうがよッ！！』

顔を赤くしながら千雨は返す。

『今、お前達の傍らにいるアスナはおそらく偽物……。替え玉の幻だ……。』

気合で再び現界出来たラカンだったが、それも限界が来たらしく身体の下半身は消え、上半身も少しずつ消えていく。

「なッ…」

「：！！」

『いや…：偽物とは言えねえか。俺や…：この世界のように…：』

消え去りながらもニツとラカンは笑う

「あ…：ラ…：カン…：さん…：」

『へっ：じゃあなばーず。闇に喰われるなよ』

上半身は消え去るが左腕だけ残り、弟子の肩へと置き別れと告げる。

「ラカンさんっ」

『後ろじゃねえ、前を見て歩け。』

前を見て歩き続けるヤツに、世界は微笑む。』

「ラカンさんッ」

ネギは悲痛に天上に向けて叫ぶ。

そして一人の英雄はこの場から退場するのであった……。

————それがとある物語の始まりだと知らずに……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6609y/>

羅漢†無双

2011年11月20日15時13分発行